

平成28年度事業報告

自：平成28年4月 1日

至：平成29年3月31日

平成28年度の我が国経済景況は、企業部門の業績改善が原動力となり緩やかなながらも回復基調が続きました。第3四半期の法人企業統計では、全規模全産業の経常利益は前期比+5.2%と四半期ベースでの過去最高益を更新した旨報告されております。しかしながら、労働衛生機関を取り巻く事業環境は人口減少や少子高齢化の進行を背景とした労働力人口（15歳以上で働く意思のある方）の減少傾向に加え、価格競争が激化し費用負担を抑えつつ、より良質な健診サービスの提供が求められる厳しい状況が続いております。企業の業績好転の影響が私ども労働衛生機関にまで波及するには、今しばらく時間を要する見込みであります。

このような事業環境下ではありましたが、当期は以下の事項に取り組み、これを実現いたしました。

予てより、(一財)健康医学協会との共同開発で取り進めていた「新健診システム」の本格稼働の準備を完了いたしました。本システムは、巡回型と施設型の健診データ処理機能を備えております。今後、会員・顧客の皆様から新しい健診結果報告書の判定基準や体裁について了承を賜りつつ、巡回・施設同一基準値への変更を推進し、医療連携の利便性向上を図ります。一方、従来どおりの判定区分で結果処理する企業も多いことから、新・旧両判定に対応可能な設計といたしました。

当期は、改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度（H27, 12, 1施行）が本格化した年度でありました。当協会は義務化される以前からT H P (Total Health Promotion Plan)事業の一環として、職場のメンタルヘルス対策に取り組んでいた知見をもとに（公財）全国労働衛生団体連合会（以下全衛連）が開発したストレスチェックサービスを活用し、制度の円滑導入に努めました。大規模事業場では、専属産業医が主導して独自にストレスチェックを実施したことや、法改正に合わせて民間企業がストレスチェックサービスを提供したこと等の影響により、その受託規模は予定を下回るものでありました。全衛連は、加盟機関が平成28年に実施した227万人のストレスチェックの結果を集計・分析し公表する計画ですので、これを職場環境改善の指標として提供しつつ、中小事業場への浸透を推進いたします。

従業員の健康促進に取り組むことによって企業の収益性を高める「健康経営」が注目されております。企業が積極的に従業員の健康維持・向上に傾注することによって、各人の持てる能力を十分に発揮し生産性向上を図るものであります。働くひとびとの心身両面での健康管理に貢献することは、当協会の社会的責務であります。良質な健康診断の提供ならびに保健指導を通じて会員・顧客の皆様の「健康経営」実践の付託にお応えすべく全役職員一丸となって、事業運営に取り組んで参ります。

I. 事業内容

1) 健康診断事業

平成28年度の健康診断受診者総数は269,909人となり、前年度の受診者総数を29,638人下回りました。

下表に示すとおり、職域関係では△30,909人と大幅に下回る結果となりました。大手企業の定期健診の取り纏め業務が、他機関に移管された影響によるものであります。当期は巡回健診事業収入を挽回いたすべく、渉外活動を強化いたしました。遺憾ながら期中の増収は達成できない結果となりました。地域・住民関係は横ばい、学校関係で微増となりました。

<受診者区分別前年度対比表>

(単位：人)

受診者区分	受診者数		差異 H28年度-H27年度
	平成27年度	平成28年度	
1) 職域関係	249,082	218,173	△30,909
2) 地域住民関係	7,683	7,680	△3
3) 学童・生徒・学生	42,782	44,056	1,274
1)～3) 総合計	299,547	269,909	△29,638

健診区分別実績の詳細は別表(10ページ)のとおりであります。

巡回健診の総受診者数を前年度並の30万人規模まで回復することを期して工場内定期健康診断の運営支援や同業他機関との協業を開始する等、来期への布石を打つことができましたが、受診数の実績として報告できる段階には至りませんでした。

2) 「ストレスチェック」の実績

当期から本格的に開始した「ストレスチェック」の実績は以下のとおりでありました。当協会は全衛連が推奨する定期健康診断と同時に効率的に受検することを提案いたしました。期の後半にグループ内の医療施設等のご協力のもと、受検者総数を拡大することができました。

<平成28年度ストレスチェック実績>

受託事業場数：102事業所

受検者総数：15,699人

3) 特定保健指導

当期の特定保健指導は、従来どおり当協会の産業保健スタッフが直接事業所を訪問し指導を実践する方法に加え、当協会の保健師が健康保険組合施設を年間を通して定期的に訪問し、健保に所属する保健師とともに健保加入者の「初回面接」ならびに「継続支援」に協力する形式も導入いたしました。

実施状況は以下のとおりでありました。

<平成28年度年間実績>

動機付け支援：197件

積極的支援：249件

4) 事務センター

健康保険組合の健診関連事務を代行する「事務センター」が本格稼働となって3年が経過いたしました。

3年間の業務別処理実績は以下のとおりでありました。

<業務別処理実績>

業務 \ 年度	H26年度	H27年度	H28年度
① 予約管理	202,484 件	190,917 件	201,243 件
② 請求管理	194,815	249,928	243,740
③ 結果処理	214,101	248,377	241,654

前期比 ①予約管理業務+10,326件 ②請求管理業務△6,188件 ③結果処理業務△6,723件となりました。期中改良を加えた入力ベリファイシステムが有効に機能し、1件の瑕疵もなく全処理工程の合計68万件を超えるデータを処理することができました。

当期から開始した新規業務の処理実績は以下のとおりでありました。

<平成28年度新規業務処理実績>

A B C 検診結果処理	9,752 件
パート先健診結果処理	393
立替え受診結果処理	3,423

期の後半は、定例の業務と併行し平成29年度からの受託が決定したあらたな業務の準備に傾注いたしました。

II 技術研修会等

職員の技術力の向上を目的として、（公社）全国労働衛生団体連合会・中央労働災害防止協会等が主催する各種講習会・研修会に参加するとともに、協会内部での個人情報保護に関する継続セミナー等を開催いたしました。

中途採用した職員や事務センターであらたに起用した派遣スタッフに対する新入職員研修も一定期間毎に開催し、他社の重大な個人情報流出事例を取り上げるなどして、個人情報保護意識の高揚を図りました。

当期のあらたな試みとして、品質保証室の主導で社内LANを利用したコンプライアンス理解度テストや情報セキュリティー研修・ビジネスマナー研修等を実施いたしました。

(1) 外部講習会・研修会

開催日	内 容	主 催
H28年 4月23日	「OZAK新人研修会」	特定医療法人 大坪会
6月12日	「第8回 より良い特定健診・保健指導のためのスキルアップ講座」 (生活習慣病改善指導講習会)	中央労働災害防止協会
7月 9日	「第1回特定保健指導実践者育成研修会」	(一社)日本肥満学会
8月31日	「労働衛生サービス機能評価施設認定実務責任者研修会」	(公社)全国労働衛生団体連合会 労働衛生サービス機能評価委員会
10月 2日	「第24回OZAK学術集会」	特定医療法人 大坪会
10月25日	「健診センターの運営力強化・受診者数向上のポイント」	(一社)日本経営協会
H29年 1月17日	ストレスチェック面接指導研修会 I 医師	(公社)全国労働衛生団体連合会
1月18日	ストレスチェック面接指導研修会 II 医師	〃
1月24日	ストレスチェック事後指導研修会 I 保健スタッフ	(公社)全国労働衛生団体連合会
1月25日	ストレスチェック事後指導研修会 II 保健スタッフ	〃
2月2・3日	生理機能検査研修会	(公社)全国労働衛生団体連合会
2月15日	ストレスチェック結果を生かしたストレス・コントロールとは	中央労働災害防止協会
2月16日	特殊健康診断研修会	(公社)全国労働衛生団体連合会
2月24日	都産健協 研修会 職域健康診断有所見率状況調査 事業場産業医が求める労働衛生機関とは	東京都産業保健健康診断機関連絡協議会
2月28日	労働衛生機関職員研修会(専門コース)	(公社)全国労働衛生団体連合会

(2) 内部教育研修会

開催年月日	内 容
平成28年10月14日 15日	<p>実務職層研修会 場 所：ビュートピア蓼科 参加者：一般職主体 16名（役員2名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入職配属されてからの仕事について ○「自動車振興会健康保険組合のしくみと健康管理事業への取り組み」 講師：自動車振興会健康保険組合 健康管理部長 佐久間 淳 氏 ○「新健診システムについて」 情報管理部長 ○「入職1年目の注意事項と事務センター業務について」 事務センター副センター長
平成28年12月10日	<p>第16回年末研修会 場 所：フクラシア東京ステーション 参加者：全常勤役職員・外部協力機関 4社 16名</p> <p>I 社内報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「各部（室）、事務センター報告」 各部代表 ②「各委員会報告」CS・ES委員会、TC委員会 医療情報委員会代表 ③「新システムの運用について」 情報管理部 ④「事務センターの現状と今後の展開」 事務センター <p>II 接遇研修 テーマ：「豊かな人間関係を築くコミュニケーション」 講 師：元LSIメディエンス ラボ運営開発センター教育担当 白熊 八重 氏</p> <p>III「個人情報保護に関する継続セミナー」と理解度テスト 講師：㈱エムシーオフィス 代表取締役 栗原 秀樹 氏</p>
平成29年 1月18日	<p>「巡回健診の基本的考え方と対応」 労働安全衛生法・医療法について 講師：専務理事 岸本 和男</p>
平成29年3月3・4日	<p>第6回管理職層研修会 場 所：箱根仙石荘 参加者：常勤役員・管理職層主体 25名</p> <p>I 講演「職場の“心の病”対策 メンタルヘルス・マネジメント」 講師：診療所長 安藤 武士</p> <p>II グループ討議・発表</p> <p>共通課題：「利益向上を考えた施策」</p>

Ⅲ 講演会の開催及びその他の発表、指導、協力等

(1) 講演会の開催

○平成28年6月28日

第51回定時社員総会終了後、会員ならびに顧客の皆様を対象に講演会を開催いたしました。

場所：リビエラ東京（豊島区）2階 会議室

演題：『人間は誤りを犯す動物である』

講師：元鹿児島労働局長 覺正 寛治 氏

(2) その他の発表、指導、協力等

○平成28年4月～29年3月「平成28年度 福島第一原発事故に伴う緊急作業従事者に係る健康相談事業」に参加いたしました。

（公社）全国労働衛生団体連合会が主導して取り組んでいる上記事業の支援窓口機関として、協力いたしました。

○ 4月17日 バングラデシュ（ボイシャキ）祭において胸部レントゲン撮影を含む無料健康相談ブースを設置、運営いたしました。

主催：ジャパン・バングラデシュ・ソサエティ

後援：豊島区、バングラデシュ大使館

場所：池袋西口公園

○9月1日～9月30日 「平成28年度 心とからだの健康推進運動」に参加・協力いたしました。

全国労働衛生週間の準備月間となる9月に展開される職域の受診率向上と心身両面での健康づくりの啓発運動に参加いたしました。

○10月13日 『産業保健フォーラム IN TOKYO 2016』に協力いたしました。

サブタイトル：こころも体も健康第一 ～みんなで取り組む健康職場～

主催：東京労働局、（公社）東京労働基準協会連合会、東京産業保健総合支援センター

場所：「タワーホール船堀」（江戸川区船堀4-1-1）

健康測定コーナーにおきまして、例年どおり骨密度測定・転倒リスク測定・簡易体力測定を実施するとともに、WBC搭載車による内部被ばく線量測定を実施いたしました。

○11月 8日 平成28年度『港地区健康と安全推進大会』に協力いたしました。

主催：三田労働基準監督署等で構成する「港地区健康と安全推進大会実行委員会」

場所：「ハローワーク品川」（港区芝5-35-3）

脳年齢測定・血液サラサラ度・骨密度測定等の無料健康測定を担当いたしました。

○H29年3月2日 『平成28年度江戸川健康づくりセミナー』に協力いたしました。

主催：江戸川労働基準監督署

共催：（公社）東京労働基準協会連合会 江戸川労働基準協会支部、江戸川労働基準協会健康づくり研究部会

場所：「タワーホール船堀」（江戸川区船堀4-1-1）

体験コーナーにおきまして、骨密度測定・転倒リスク測定・血液サラサラチェック・脳年齢チェックを担当いたしました。
60社（80名）の方々に参加いただき、以下の実績でありました。

・骨密度測定	: 52名
・転倒リスク測定	: 41名
・血液サラサラチェック	: 56名
・脳年齢チェック	: 40名

○ 3月23日 『第48回健康医学研究会』に協賛いたしました。

主催：一般財団法人 健康医学協会

協賛：当協会・（医社）生光会

場所：「ホテルニューオータニ」（千代田区紀尾井町4-1）

基調講演Ⅱを担当いたしました。

テーマ：「過重労働による健康障害防止対策の動向」

講師：健診部 産業保健グループ 保健師 村上 陽子

IV 健診関連設備・機材の整備、拡充等

(1) 巡回健診の拠点となる「神奈川診療所」と「千葉診療所」を開設いたしました。

保健所に対する巡回健診の届出を簡素化すべく、関東各県内に巡回健診の拠点となる診療所を開設して参りました。期中、大和市内に「神奈川診療所」船橋市内に「千葉診療所」を開設いたしました。埼玉・茨城県に続く4県の巡回健診の拠点を確保したこととなりました。これにより、各県内に所在する事業所の巡回健診の届出手続きが、都内と同様に「巡回健診実施計画書」を提出するのみで足りることとなりました。顧客健診担当者の健診会場使用承諾書の発行・健診会場の図面作成等の事務負担が軽減されると同時に当協会の訪問申請の頻度も3回から1回となり、大幅な省力化を図ることができました。

(2) 全ての検診車にドライブレコーダーを搭載いたしました。

万が一の車両事故に備え、全ての検診車にドライブレコーダーを搭載し前方及び車内の状況を録画すると同時に、車内の音声も録音することといたしました。事故が起こった際、原因究明の有力な材料として利用するとともに、業務閑散期に運転従事者が事故や危険を感じた際の映像を再生し、意見交換することにより安全運転の教材としても活用し、公私とも交通事故の撲滅を目指すことといたしました。

V 外部精度管理への参加状況

公益社団法人全国労働衛生団体連合会が主催する以下の精度管理調査に継続的に参加いたしました。

- ①平成28年度 胸部エックス線検査精度管理調査
評価B (28.10.31)
- ②平成28年度(第30回)労働衛生検査(鉛・有機溶剤に係る生物化学的モニタリング検査)精度管理調査
評価A (29.2.10)
- ③平成28年度 臨床検査精度管理調査
評価A (29.3.31)

VI 会議の開催

- (1) 定時社員総会：平成28年 6月28日
- (2) 理事会：平成28年 6月 3日
平成28年10月28日
平成29年 3月24日

(3) その他

- ・常勤理事会
 - ・ライン会議
 - ・品質保証委員会
 - 1) CS・ES委員会
 - 2) T・Cリスクマネジメント委員会
 - 3) 医療技術委員会
 - ・安全衛生委員会
 - ・機関誌編集委員会
 - ・個人情報保護委員会 適宜開催
- 毎月定例開催

VII 研究資料の配布等の広報活動

(1) 事業年報の配布

平成27年度定期健康診断を実施した「職域関係」の有所見率を検査項目別・9業種に分類して集計し、表とグラフで統計結果を表すとともに協会の平成27年度トピックスを掲載した事業年報を作成し、会員・顧客の皆様に配布いたしました。

(2) 機関誌「あおぞら」3・4号を発行しました。

当協会の機関誌「あおぞら」3・4号を発行し、新検診車や各部の紹介等、協会の近況報告に加え「医療情報」・「労働衛生対策の歴史」をシリーズで掲載し、顧客の皆様に配布いたしました。機関誌編集委員会の主導で、労働衛生関連法規の動向や、心身両面での健康づくりに役立つ情報を掲載し、皆様に提供して参ります。

VIII 関係団体への協力等

①(公社)全国労働衛生団体連合会 監事 会長 大坪 修

②東京都産業保健健康診断機関連絡協議会 副会長 会長 大坪 修

理事 理事長 白川 毅

企画部会長 顧問 山岸 裕

③全国労働衛生機関厚生年金基金 選定代議員 常務理事 石渡佐恵樹 (H29, 2, 22解散議決)

IX 会員の異動状況

(H29, 3, 31現在)

会員区分	前期末	増加	減少	当期末
法人正会員	23	0	2	21
個人正会員	25	0	0	25
法人賛助会員	11	0	0	11
個人賛助会員	0	0	0	0
合計	59	0	2	57

(別表)

平成28年度健康診断区分別受診者数一覧表

1) [職域関係]

健診区分	受診者数(人)	備 考
雇 入 れ 時	6,394	
定期健康診断	43,402	
特殊健康診断	22,190	詳細は別記参照
生活習慣病健康診断	124,898	
その他健康診断	20,945	二次精密検査、定期追加検査含む
歯 科	344	
合 計	218,173	

別 記 (特殊健康診断内訳)

健 診 区 分		受診人数(人)	備 考
法 定	じん肺	340	
	鉛	337	
	有機溶剤	7,523	
	特定化学物質	4,621	
	電離放射線	1,052	
	石 綿	350	
行政指導	有害光線	766	
	騒 音	3,275	
	振 動 工 具	309	
	腰 痛	553	
	V D T	3,064	
合 計		22,190	

2) [地域住民関係]

健診区分	受診者数(人)	備 考
住民健康診断	7,680	行政・地区医師会よりの受託、及び事業所家族

3) [学童・生徒・学生関係]

健診区分	受診者数(人)	備 考
学童健康診断	44,056	学童・高等学校・専門学校・専修学校・大学等

1) ~ 3) 合計 269,909人